

気候変動適応における広域アクションプランのご紹介

令和6年6月6日

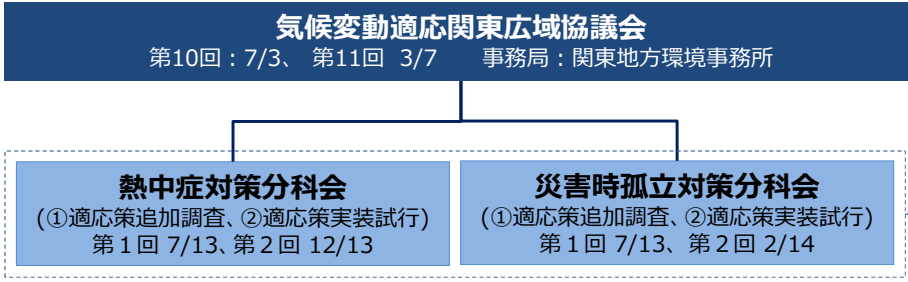
関東地方環境事務所 環境対策課
(気候変動適応関東広域協議会事務局)

これまでの協議会活動の経緯 (平成29年度～令和4年度)

事業名	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
地域適応 コンソーシアム事業 (平成29年度～令和元年度)	全国で53の調査及び普及啓発活動を実施 <関東地域では以下の7調査を実施> ① 夏季の高温・少雨による茶栽培への影響調査 (静岡県) ② 降水量の増加と社会経済状況の変化を考慮した都市圏の内水氾濫リスク評価 (埼玉県) ③ 気候変動による印旛沼とその流域への影響と流域管理方法の検討 (千葉県) ④ 気候変動による節足動物媒介感染症リスクの評価 (神奈川県) ⑤ 熱中症リスクの評価手法の整理・構築 (さいたま市) ⑥ 気候変動による高山・亜高山生態系への影響調査 (群馬県) ⑦ 気候変動による湿地環境への影響調査 (新潟市)			 地域適応 コンソーシアム事業成果集 Final Report of Regional Adaptation Consortium Project 環境省				
気候変動適応における 広域アクションプラン策定事業 (令和2年度～令和4年度)				全国で21のアクションプラン等を策定 <関東地域では以下の2つのアクションプランと課題ノウハウ集及び事例集を作成> ① 暑熱対策に係る気候変動適応アクションプラン ② 災害対策に係る気候変動適応アクションプラン ③ 地域気候変動適応計画策定に向けた課題・ノウハウ集及び事例集				
気候変動適応 地域づくり推進事業関東地域 (令和5年度～)							適応策の実装を支援	

令和5年度協議会・分科会体制

◆ 気候変動適応関東広域協議会の運営・体制



- 地域適応計画策定支援勉強会
(12市町村 庁内関連部署担当者)
- 環境審議会、策定委員会委員
(5市町村)
- 民間企業者向け適応勉強会
(3商工会、1信用金庫会員企業等)
- 気候変動適応セミナー
(熱中症対策 8/4、気候災害対策 9/27)
関東地方事務所環境対策課 R5業務として実装

< 構成員 >

< 地方自治体 >

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、静岡県、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市

< 地域気候変動適応センター >

茨城大学、栃木県環境森林部、群馬県知事戦略部、埼玉県環境科学国際センター、千葉県環境研究センター、東京都気候変動適応センター、神奈川県環境科学センター、新潟県保健環境科学研究所、山梨県環境・エネルギー部、静岡県環境衛生科学研究所、川崎市環境総合研究所

< 地方支分部局 >

農林水産省 関東農政局、北陸農政局、関東森林管理局
 経済産業省 関東経済産業局
 国土交通省 関東地方整備局、北陸地方整備局、中部地方整備局、
 関東運輸局、北陸信越運輸局、中部運輸局
 気象庁 東京管区气象台
 環境省 関東地方環境事務所 (事務局)

< アドバイザー (兼分科会座長) >

敬称略 五十音順

氏名	所属
小野 雅司	国立環境研究所 エコチル調査コアセンター 客員研究員
加藤 孝明	東京大学 生産技術研究所 人間・社会系部門 都市基盤安全工学国際研究センター 教授
国立環境研究所 気候変動適応センター	

< オブザーバー >

1都9県の区市町村 (82)、関東管内地域気候変動適応センター (8)、関東管内地方气象台 (9)、文部科学省、環境省気候変動適応室、地域地球温暖化防止活動推進センター (15)

1. アクションプランに追加する適応アクション案 (一覧)

- Web検索、地域における熱中症対策の先進的な取組事例集 (令和5年3月、環境省)、環境省モデル事業、先進的な取組を行う民間企業等を調査し、37個の事例を整理した。
- 今後、アクションプランに追加する具体事例として検討しているものは以下の通り。次頁以降で特徴を整理。

ターゲット	リスクシナリオ ↓ だれが、いつ、どこで	対策実施者	適応アクションのテーマ	適応アクションの具体例	
1 高齢者等	高齢者 日中・昼間 外出中 本人	本人	1-1 危機感の適切な伝達と行動変容を促す	1-1A 暑熱曝露環境や熱中症リスクの可視化による啓発 1-1B 民間企業・庁内関係部署との連携による普及啓発	
	高齢者 夜間 住居 本人	本人	1-2 夜間に生じる高齢者の熱中症被害を防ぐ	1-2A IoT活用による適切な室内環境の整備に向けた実証実験	
	高齢者等 (一人暮らしの方等) 日中・昼間 住居 管理者、周囲の人	管理者、周囲の人	1-3 地域や個人の特性に応じたピンポイント支援	1-3A 身体の保水能力向上に向けた筋力トレーニング啓発 1-3B 地域の特性・状況に応じた普及啓発の実施 1-3C リスクの高い高齢者に向けたピンポイント支援の実施	
2 農業者	農業者 日中・昼間 仕事場 本人	本人	2-1 農業者の暑熱環境改善	2-1A 熱中症対策セミナーを通じた暑熱環境改善の取組	
3 工事現場等作業員	工事現場等作業員 日中・昼間 仕事場 管理者	管理者	3-1 建設作業員の暑熱環境改善	3-1A 建設現場における熱中症対策の導入および実施	
4 屋内外で運動中の人	若壮年~高齢者 運動中 運動施設 (屋内外) 管理者	管理者	4-1 運動施設、まちなかでの複合的な対策	4-1A 高齢者・小学生・幼児向け熱中症予防グッズ配布事業 4-1B 運動公園への日陰創出 4-1C 熱中症警戒アラートの活用 4-1D クーリングシェルター (まちなかオアシス) の設置	
	イベント参加者 日中・昼間 イベント会場 (屋内外) 管理者	管理者	5-1 イベント時の熱中症を防ぐ	5-1A イベント当日における熱中症対策の検討・実施 5-1B イベント開催時期の変更による曝露回避	
	6 学校生活での児童・生徒等	子ども 日中・昼間 (運動中等) 学内等 教職員、本人等	教職員、本人等	6-1 モニタリングシステムの活用及びガイドラインの作成	6-1A 幼児向けガイドラインによる熱中症予防・回避行動 6-1B 小学生向けガイドラインによる熱中症予防・回避行動 6-1C 中学生向けガイドラインによる熱中症予防・回避行動 6-1D WBG計を用いた熱中症リスクの可視化
		7 車中の乳幼児	乳幼児 日中・昼間 車中 保護者	保護者	7-1 車中の熱中症事故を防ぐ
その他			分野横断的な取組	その他	データ収集・対策促進の自治体間連携

+ 追加 I - ① 省エネクールスポットの設置
追加 I - ② サイネージによる注意喚起・普及啓発

+ 追加 II 涼み処
※他ターゲットにも活用可能

+ 追加 I - ③ フラクタル日よけの設置
追加 I - ④ ドライミストの設置

2. 涼み処の事例整理 – パターン別の整理 –

- 各自治体等において実際に取り組まれているクールスポットにおける、設備や備え等の特徴に着目し、クールスポットを以下の3つのパターンに分類した。
- R5年度は計3事例（パターン1：立川ひと涼みスポット、パターン2：すみだひと涼みスポット薬局、パターン3：栃木県佐野市）熱中症予防のための涼み処）について前頁の項目で整理を進めた。

パターン 1

休憩スペースとエアコンの設置と、ポスターやステッカー、のぼり等を用いてクールスポットであることを示した、涼を取るための必要最小限の要件を満たすもの。



パターン 2

パターン1の要件に加え、クールスポットに飲料水、冷却シート等の熱中症対策用品が備えられているもの。



パターン 3

体調不良者のためのベッド等の簡易な休憩室を備え、体調の急変時に救急車の手配や家族への連絡が可能である等、施設の職員による緊急対応が可能であるもの。

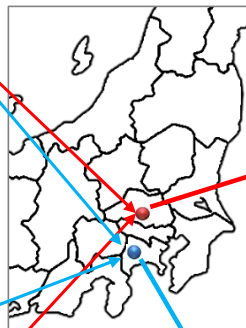


3. 適応策実装に向けた試行における課題と対応案の整理

- R5年度試行事業協力自治体
 - ・**所沢市 環境クリーン部 マチごとエコタウン推進課**（分科会メンバー）
 - 所沢市 商業観光課（庁内連携）
 - 所沢市観光情報・物産館 YOT-TOKO（指定管理者）
 - ・**開成町 企画政策課**（分科会メンバー）
 - 開成水辺スポーツ公園（指定管理者）

表 3.1 各ターゲットと適応アクション

ターゲット	リスクシナリオ	対応策	適応アクションのテーマ	適応アクションの具体例	
1 高齢者等	高齢者 日中・昼間 外出中 本人	本人	1-1	危機感の適切な伝達と行動変容を促す	1-1-A 暑熱曝露履歴や熱中症リスクの可視化による啓発 1-1-B 民間企業・庁内関係部署との連携による普及啓発
	高齢者 夜間 住居 本人	本人	1-2	夜間に生じる高齢者の熱中症被害を防止	1-2-A IoT活用による適切な室内環境の整備に向けた実証実験
	高齢者等（一人暮らしの方等） 日中・昼間 住居 管理者、周囲の人	管理者、周囲の人	1-3	地域や個人の特性に応じたピンポイント支援	1-3-A 身体機能能力向上に向けた筋力トレーニング啓発 1-3-B 地域の特性・状況に応じた普及啓発の実施 1-3-C リスクの高い高齢者に向けたピンポイント支援の実施
2 農業者	農業者 日中・昼間 仕事場 本人	本人	2-1	農作業者の暑熱環境改善	2-1-A 熱中症対策セミナーを通じた暑熱環境改善の取組
3 工事現場等作業員	工事現場等作業員 日中・昼間 仕事場 管理者	管理者	3-1	建設作業員の暑熱環境改善	3-1-A 建設現場における熱中症対策の導入および実施
4 若年～高齢者 部外者（運動中の人）	若年～高齢者 運動中（屋内外） 管理者	管理者	4-1	運動施設・まちなかでの複合的な対策	4-1-A 高齢者・小学生・幼児向け熱中症予防グッズ配布事業 4-1-B 運動公園への日陰創出 4-1-C 熱中症警戒アラートの活用 4-1-D クーリングシェルター（まちなかオアシス）の設置
	イベント参加者 日中・昼間 イベント会場（屋内外） 管理者	管理者	5-1	イベント時の熱中症を防止	5-1-A イベント当日における熱中症対策の検討・実施 5-1-B イベント開催時期の変更による曝露回避
	子ども 日中・昼間 学内等 教職員、本人等	教職員、本人等	6-1	モニタリングシステムの活用及びガイドラインの作成	6-1-A 幼園向けガイドラインによる熱中症予防・回避行動 6-1-B 小学生向けガイドラインによる熱中症予防・回避行動 6-1-C 中学生向けガイドラインによる熱中症予防・回避行動 6-1-D 編成計を用いた熱中症リスクの可視化
	その他 乳幼児 日中・昼間 車中 保護者	保護者	7-1	車中の熱中症事故を防止	7-1-A 観察と連携した普及啓発活動 7-1-B 関係団体・商業施設と連携した普及啓発活動
その他	分野横断的な取組	その他	その他	その他 データ収集・対策促進の自治体連携	



所沢市観光情報・物産館 YOT-TOKO



< 3. 試行例 > 所沢市観光情報・物産館 YOT-TOKOでの試行実施の概要

<YOT-TOKOの概要>

- ① 設置目的：観光情報の提供及び特産品の販売等により市の魅力を発信し、産業を振興するとともに、市内外の地域間交流を促進すること
- ② 営業時間：午前9時から午後5時まで
- ③ 休館日：なし
- ④ 屋内のエアコン運転の状況：基本的に24時間運転（物産保護の観点から）

<試行の概要>

- ① 設置期間：令和5年8月3日（木）～令和5年10月10日（火）
- ② アンケート：令和5年9月3日（日）YOT-TOKO祭り（盆踊り）の開催日の13時～15時の約2時間



写真：(株)オーク情報システム提供資料に追記



写真：関東地方環境事務所撮影

< 3. 試行例 > 施設利用者へのアンケート結果【R5.9.3（日）13:00-15:00】

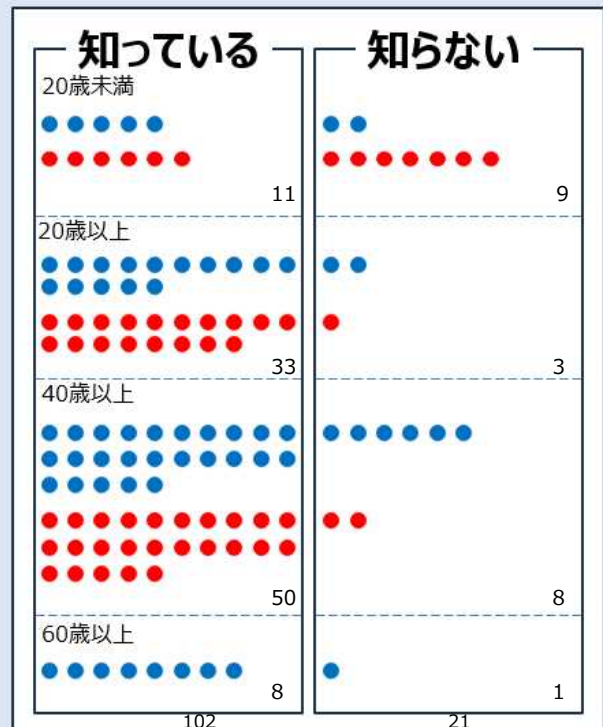
問1：熱中症警戒アラートを知っていますか？

～ テレビやラジオ、インターネット等の天気予報等でも使用されています ～

n=123

警戒段階 (WBG)	注意すべき気象情報	日常生活における注意事項	熱中症予防運動指導
31℃以上	赤い文字で表示される	高齢者においては暑熱が最も危険な状態に陥りやすいため、室内では暑熱の上昇に注意する。	【暑熱回避】 可能な限り外出を中止する。特に子供の場合は中止を要する。
28～31℃	すべて白文字で表示される	高齢者は暑熱に弱いため、室内では暑熱の上昇に注意する。	【暑熱回避】 高齢者の危険性が高いので、暑い運動や外出など危険な行動を中止し、涼しい場所へ移動する。20℃前後の涼しい場所へ移動を行う。暑熱に弱い人は運動を中止する。
25～28℃	黄色い文字で表示される	高齢者は暑熱に弱いため、室内では暑熱の上昇に注意する。	【暑熱回避】 高齢者の危険性が高いので、暑い運動や外出など危険な行動を中止し、涼しい場所へ移動する。20℃前後の涼しい場所へ移動を行う。暑熱に弱い人は運動を中止する。
21～25℃	緑色の文字で表示される	高齢者は暑熱に弱いため、室内では暑熱の上昇に注意する。	【暑熱回避】 高齢者の危険性が高いので、暑い運動や外出など危険な行動を中止し、涼しい場所へ移動する。20℃前後の涼しい場所へ移動を行う。暑熱に弱い人は運動を中止する。

33以上 熱中症警戒アラートは、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境になると予想される日の前日夕方または当日早朝に都道府県ごとに発表されます。



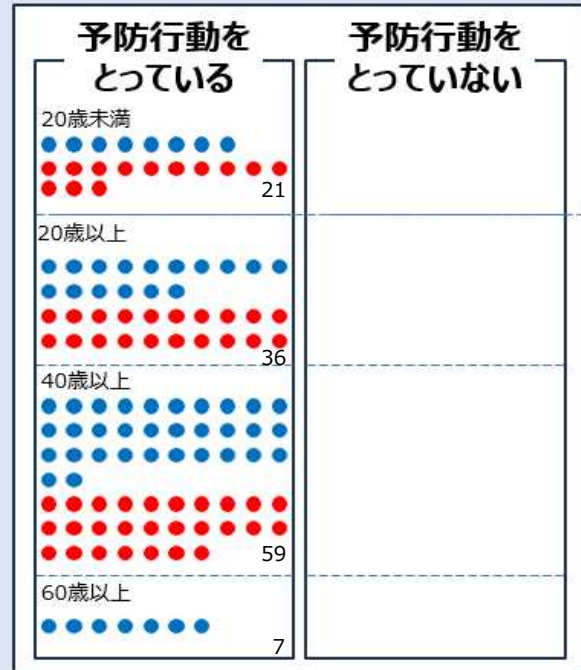
< 3. 試行例 > 施設利用者へのアンケート結果【R5.9.3（日）13:00-15:00】

熱中症対策アンケートにご協力ください。

問2：熱中症予防行動をとっていますか？

～ 特別な行動ではありません。情報を得て、毎日の心がけが重要です ～

n=123



< 3. 試行例 > YOT-TOKOにおける結果について

< モニタリング結果（無線システム）について >

- ① 「屋内」においては、エアコンが24時間運転されていることから、WBGT計の数値は、夜間・昼間を問わず、25未満となっていた。ただし、「屋内」のWBGTを西側の外壁（ガラス）内側に設置したことから、夕方において25以上28未満（■）時間帯が9日/29日間で1～2時間程度あったが、特に問題はないと思われる。
- ② 「屋外」においては、多くの日で6時～19時の日中において28を超える（■）場合が多く、8時～14時においては、31を超える（■）の値となっていた。また、多くの日で、12時ごろから徐々に下がりはじめ、18時までは、28を下回る（■）ことが多いことが分かった。

< 施設利用者へのアンケート結果について >

- ① YOT-TOKOにおいては、家族連れ（小さいお子さんから高齢者まで）の利用者が多く、利用者の年齢幅は広いと思われる。そこで、性別、年齢も把握できるように、街頭アンケート形式とし、対面によるアンケートを実施した。また、必要に応じて、追加の質問（情報はどこから入手しているか等）を行った。
- ② 今回のアンケート結果では、「熱中症警戒アラート」の認知度は、約83%（102/123）であった。追加ヒアリングで「熱中症警戒アラート」を知ったきっかけを確認すると、高校生以下の子供を持つ保護者は、（テレビの）天気予報や、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校から送られてくるメール・ライン等で知ったとの回答が多かった。→ 学校からのお知らせ等は効果的と思われる。
- ③ また、熱中症予防行動に関しては、回答者全員が実施していると回答した。これに関する追加ヒアリングでは、ほとんどの回答者がエアコンを使用していると答えたほか、母親が家族全員に周知し、家族全員に対して、水筒等の予防策をとっているとの回答が多かった。

< 3. 試行例 > 開成水辺スポーツ公園での試行実施の概要

< 開成水辺スポーツ公園の概要 >

- ① 設置目的： 町民一人ひとりの健康増進やライフスタイルを豊かにすることを目的に設置されたスポーツ公園です。
- ② 営業時間： 8：30から17：00
- ③ 休園日： 木曜日
- ④ 屋内のエアコン運転の状況： 営業時間中

< 試行の概要 >

- ① 設置期間： 令和5年8月10日（木）～ 令和5年10月5日（木）
- ② アンケート： 令和5年8月18日（金）～ 令和5年10月5日（木）

モニターの下にA0サイズのパネルを設置して、施設利用者にシールを貼っていただいた



写真：（株）オーク情報システム提供資料に追記



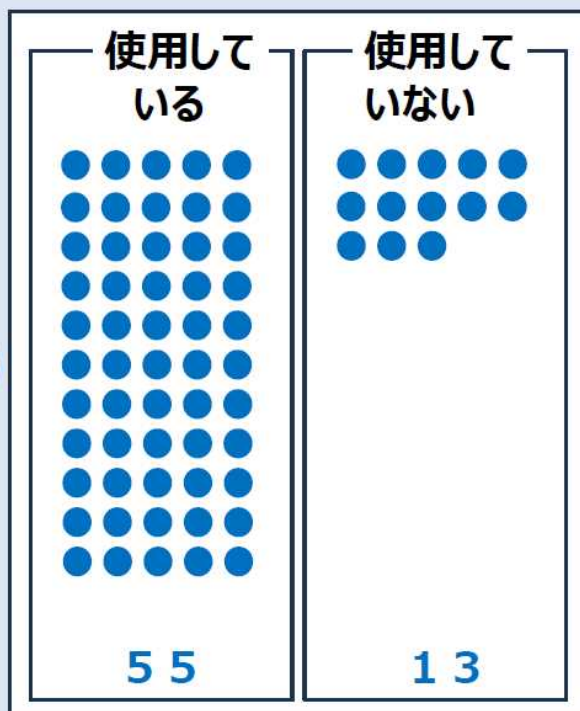
写真：開成町企画政策課撮影

< 3. 試行例 > 開成水辺スポーツ公園におけるアンケート結果

問1：既に、熱中症対策としてエアコンを活用していますか？

～ エアコンの使用は、熱中症を予防する大切な予防行動の一つです ～
 ～ 特に、睡眠中には、こまめな水分・塩分の補給をしにくい状況になります ～

n=68

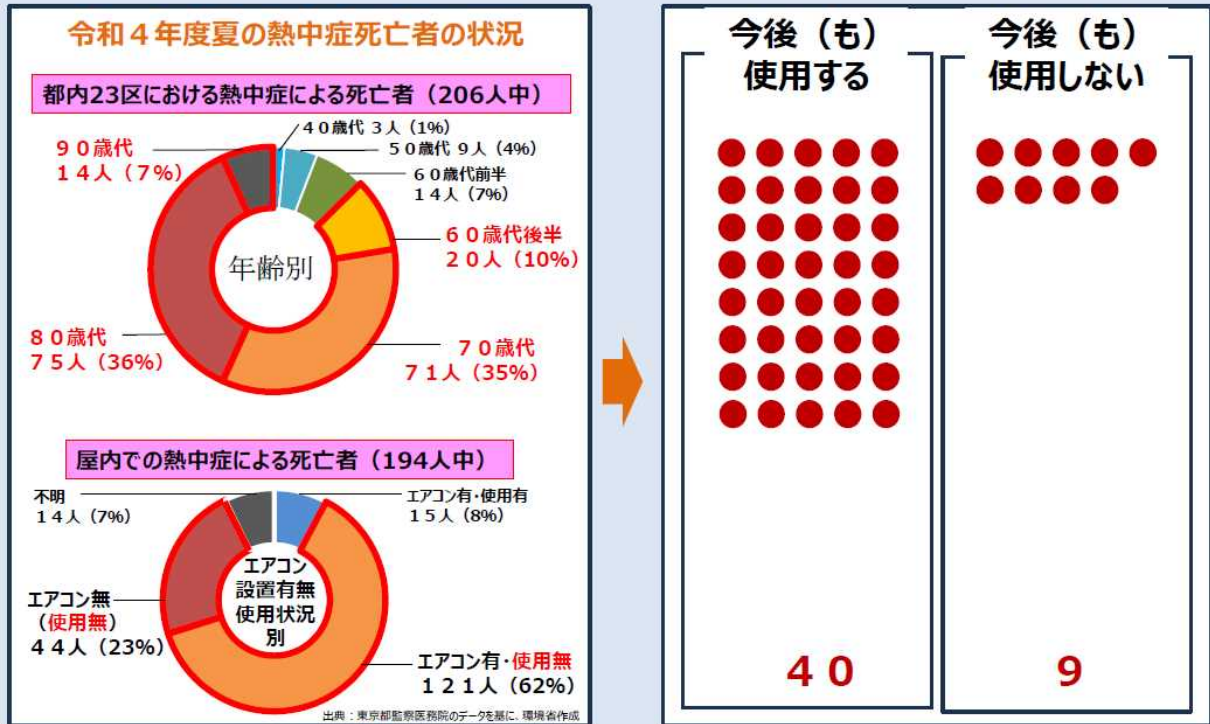


< 3. 試行例 > 開成水辺スポーツ公園におけるアンケート結果

問 2 : 今後、エアコンを適正に使用していきたいと思いませんか？

～ 熱中症による死亡者のうち、65歳以上の方が88%でした ～

～ 屋内での熱中症による死亡者のうち、約 9 割がエアコンを使用されてませんでした ～ n=49



< 3. 試行例 > 開成水辺スポーツ公園における試行結果について

< モニタリング結果 (無線システム) について >

- ① 「屋内」においては、事務所の営業時間 (9時～17時) においてエアコンの運転がされていることから、これらの時間におけるWBGT計の数値は、25未満 (■) となっていた。ただし、休園日 (基本的には木曜日) には、エアコンの運転がないことからWBGTが30前後 (■) になる場合があった。(休園日には、施設は利用できない)
- ② また、8月には、営業開始の時間前の朝6時くらいから「屋内」のWBGTは31 (■) を超える場合が多くあった。(利用者は朝9時より利用可能)
- ③ さらに、高齢者の利用がほとんどであるパークゴルフ場のWBGT計は、朝6時くらいから上昇し9時にはほぼ毎日31 (■) を超える状況にあり、夕方は16時くらいから下がり始める傾向にあった。

< 利用者へのアンケート結果について >

- ① 今回のアンケートは、高齢者の利用率が高いことを考慮して、「エアコンの利用」にテーマを絞って行った。実施方式としては、一定期間、アンケートのパネルをディスプレイの下に設置して、利用者自身にシールを貼ってもらった。
- ② アンケートには、「R4年度の熱中症死亡者において、高齢者が中心であることと、エアコンの使用がされない場合が多いこと」などを掲示したが、アンケート結果では、「利用していない13人→今後も利用しない9人」と、意識の変化はあまり見られない結果となった。→ R6試行活動にて、追加調査 (理由等) を検討中
- ③ 気温、湿度を大きく表示して欲しい。(WBGTの認知度が未だ低いことから、表示と啓発が次年度の課題)

< 施設管理者へのヒアリング結果について >

- ① WBGT計 (屋内、屋外5か所) は、執務室内の職員端末で確認できることから、必要に応じて、屋外施設の利用者に対して、注意喚起ができたのは良かった。(R5年度の搬送者は無かった)
- ② 施設管理者からの要望として、利用者から熱中症対策について問合せがあった場合に、説明の参考となるようなリーフレットのようなものがあれば、詳しく説明できたとと思われる。この点を検討いただきたいとの要望があった。
→ リーフレットについては、既存のモノの活用も併せて、次年度に向けた課題としたい。
- ③ 機器の設置は、もっと早い時期から始めて欲しい。→ 次年度はGW明けからの開始を予定

4. 高齢者対策に向けた実態調査

◆ アクションプラン実装支援（熱中症対策）との連携

以下のような作業を実施しつつ、適応策のアクションプランの実装を目指す

- ① 地域気候変動適応計画へ適応策としての反映（影響評価とペア） 【制度としての実装】
- ② 庁内体制の整備、連絡会等の創設・運営（適応策の検討） 【体制としての実装】
- ③ 適応策の実施（適応アクションプランを参考に実施）及び評価 【対策としての実装】
- ④ 課題・ノウハウ等を既存アクションプランへの反映（実装編）、協議会報告や普及啓発セミナーでの発表

① 気候変動適応計画へ適応策としての反映



② 庁内体制の整備、連絡会等の創設・運営



③ 適応策の実施（適応アクションプランを参考に実施）及び評価

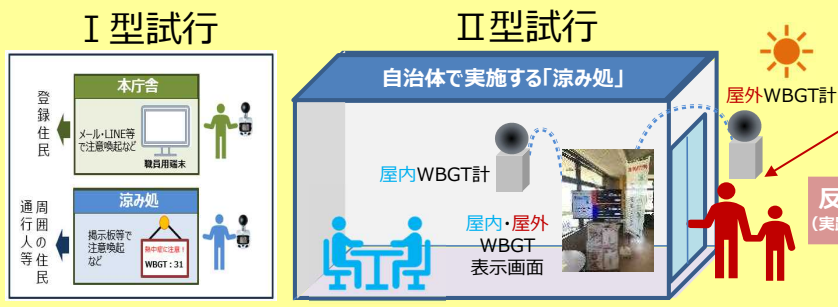


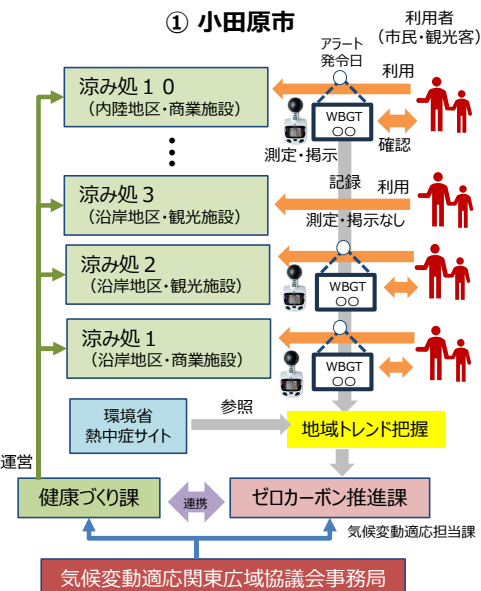
表 31 各ターゲットと適応アクション

ターゲット	リスク	シナリオ	対応策	実施主体	適応アクションのテーマ	適応アクションの具体例	
1 高齢者等	高齢者	日中・昼間	外出中	本人	1-1	危険度の適切な伝達と行動改善を図る	1-1A 暑熱曝露環境や熱中症リスクの可視化による啓発 1-1B 民間企業・庁内関係部署との連携による普及啓発
					1-2	課題に起因する高齢者の熱中症発生を低減	1-2A 1日1回による適切な室内環境の整備に向けた実証実験 1-2B 身体の水産能力向上に向けた筋力トレーニング啓発
					1-3	地域や個人の特性に応じたポイント支援	1-3A 地域や個人の特性に応じたポイント支援 1-3B 地域や個人の特性に応じた普及啓発の実施 1-3C リスクの高い環境に合わせたポイント支援の実施
2 農作業等	農作業者	日中・昼間	仕事場	本人	2-1	農作業者の暑熱環境改善	2-1A 熱中症対策セミナーを通じた暑熱環境改善の取組
					2-2	農作業者の暑熱環境改善	2-2A 熱中症対策セミナーを通じた暑熱環境改善の取組
3 工事現場等	工事現場等作業者	日中・昼間	仕事場	管理者	3-1	建設現場の暑熱環境改善	3-1A 建設現場における熱中症対策の導入および実施
					3-2	建設現場の暑熱環境改善	3-2A 建設現場における熱中症対策の導入および実施
4 運動会等	青少年・高齢者	運動会	運動会	管理者	4-1	運動会やまちなかでの暑熱環境対策	4-1A 高齢者・小学生・幼児向け熱中症予防グッズ配布事業 4-1B 運動会場への日陰施設 4-1C 熱中症対策アラートの活用 4-1D クーリングシェルター（まちなかオアシス）の設置
					4-2	運動会やまちなかでの暑熱環境対策	4-2A イベント当日における熱中症対策の検討・実施 4-2B イベント開催期間の変更による暑熱環境改善
5 イベント参加者	イベント参加者	日中・昼間	イベント会場	本人等	5-1	イベント時の熱中症を低減	5-1A イベント当日における熱中症対策の検討・実施 5-1B イベント開催期間の変更による暑熱環境改善
					5-2	イベント時の熱中症を低減	5-2A イベント当日における熱中症対策の検討・実施 5-2B イベント開催期間の変更による暑熱環境改善
6 学童生活等の児童等	子ども	日中・昼間	学校	教職員、本人等	6-1	モニタリングシステムの活用及びガイドラインの作成	6-1A 幼児向けガイドラインによる熱中症予防・回避行動 6-1B 小学生向けガイドラインによる熱中症予防・回避行動 6-1C 中学生向けガイドラインによる熱中症予防・回避行動 6-1D 統計を用いた熱中症リスクの可視化
					6-2	モニタリングシステムの活用及びガイドラインの作成	6-2A 幼児向けガイドラインによる熱中症予防・回避行動 6-2B 小学生向けガイドラインによる熱中症予防・回避行動 6-2C 中学生向けガイドラインによる熱中症予防・回避行動 6-2D 統計を用いた熱中症リスクの可視化
7 乳幼児	乳幼児	日中・昼間	車中	保護者	7-1	車中の熱中症発生を低減	7-1A 啓発と連携した普及啓発活動 7-1B 関係団体・企業連携と連携した普及啓発活動
					7-2	車中の熱中症発生を低減	7-2A 啓発と連携した普及啓発活動 7-2B 関係団体・企業連携と連携した普及啓発活動
その他	分野横断的な取組	その他	その他	その他	その他	その他	

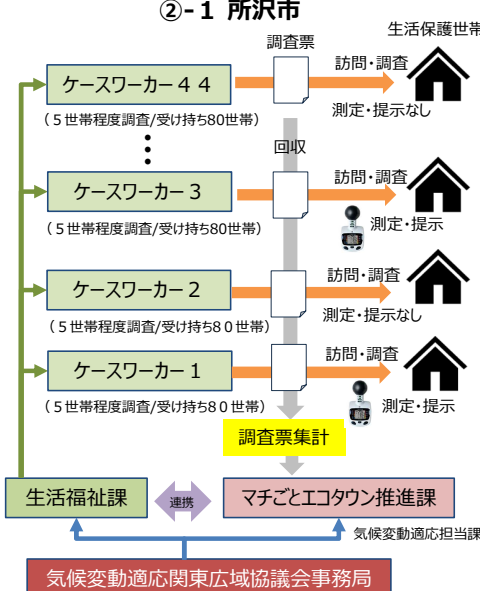
R6 年度 I 型試行活動の目的と試行に協力いただく自治体・施設

- 携帯可能なWBGT計を活用して、通常の業務を実施しながら少しの追加作業により、今後の熱中症対策に有用な課題等を抽出し、今後の熱中症対策につなげる情報を整理する。
- ① 複数の涼み処における屋外のWBGTの簡易計測・利用者への掲示と、環境省熱中症サイト（アメダス）におけるWBGTとの比較により、複数の涼み処の地域トレンドを把握する（神奈川県小田原市）
- ② 高齢者のエアコン未使用の理由を深堀するために、高齢者のいる世帯への訪問も業務としている福祉関連部署と連携し、家庭訪問を行うスタッフによる調査（簡単なアンケート）により、高齢者のエアコン未使用の理由と施策への展開案・課題等を整理する（埼玉県所沢市、群馬県上野村）

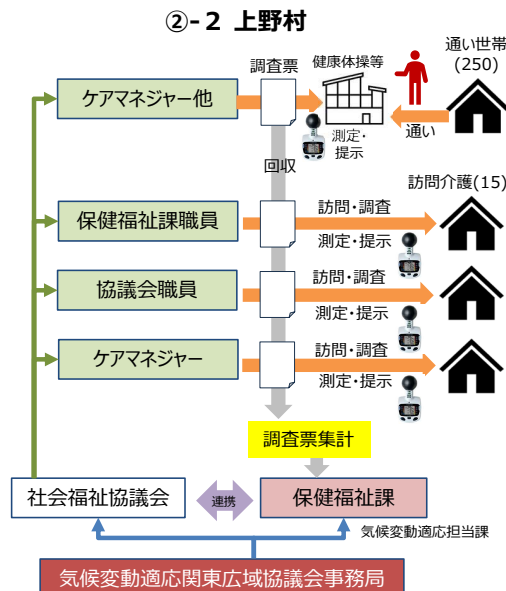
① 小田原市



②-1 所沢市



②-2 上野村



R6年度I型試行活動に用いる調査票（案）

(案)
所沢市 熱中症対策（I型試行） 調査票

訪問日時	令和 年 月 日 () 午前・午後 時ごろ				
担当者					
訪問先	管理番号				
	年代別世帯人数 (人)	0-19 歳	20-39 歳	40-59 歳	60-64 歳

※訪問先の状況について、確認結果欄のいずれかの□に☑を入れてください。

番号	確認内容	確認結果	
①	居間にエアコンはありますか？	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
②	居間のエアコンは在宅時に使用していますか？	<input type="checkbox"/> 使用している	<input type="checkbox"/> 使用していない
③	(②「使用していない」の場合) 居間のエアコンを使用していない理由は何ですか？	<input type="checkbox"/> 特に暑さを感じない <input type="checkbox"/> 風が当たるのが嫌だ <input type="checkbox"/> 電気代がかかるのが嫌だ <input type="checkbox"/> その他 ()	
④	寝室にエアコンはありますか？	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
⑤	寝室のエアコンは就寝時に使用していますか？	<input type="checkbox"/> 使用している	<input type="checkbox"/> 使用していない
⑥	(⑤「使用していない」の場合) 就寝時にエアコンを使用していない理由は何ですか？	<input type="checkbox"/> 特に暑さを感じない <input type="checkbox"/> 風が当たるのが嫌だ <input type="checkbox"/> 電気代がかかるのが嫌だ <input type="checkbox"/> その他 ()	
⑦	室内の暑さ指数は適切でしたか？	<input type="checkbox"/> 測定していない <input type="checkbox"/> 「注意」以下 <input type="checkbox"/> 「警戒」以上	
⑧	上記のいずれかでエアコンを使用していない場合、熱中症の危険性のご説明をしましたか？ 市民には聞かれましたか？	<input type="checkbox"/> した <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 聞いてもらった <input type="checkbox"/> 聞いてもらえなかった
⑨	今後はエアコンを使用する意思が見られましたか？	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
⑩	備考 (自由記述)		

作成：気候変動適応関東広域協議会 熱中症対策分科会
協力：所沢市 生活福祉課・マチごとエコタウン推進課

(案)
上野村 熱中症対策（I型試行） 調査票

訪問日時	令和 年 月 日 () 午前・午後 時ごろ				
担当者					
訪問先	管理番号				
	年代別世帯人数 (人)	0-19 歳	20-39 歳	40-59 歳	60-64 歳

※訪問先の状況について、確認結果欄のいずれかの□に☑を入れてください。

番号	確認内容	確認結果	
①	居間にエアコンはありますか？	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
②	居間のエアコンは在宅時に使用されている様ですか？	<input type="checkbox"/> 使用している	<input type="checkbox"/> 使用していない
③	居間のエアコンを使用されていない場合、その理由はどのようなことでしょうか？	<input type="checkbox"/> 特に暑さを感じない <input type="checkbox"/> 風が当たるのが嫌だ <input type="checkbox"/> 電気代がかかるのが嫌だ <input type="checkbox"/> メンテナンスをしていない/故障 <input type="checkbox"/> その他 ()	
④	寝室にエアコンはありますか？	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> ない
⑤	寝室のエアコンは就寝時に使用されている様ですか？	<input type="checkbox"/> 使用している	<input type="checkbox"/> 使用していない
⑥	寝室のエアコンを使用されていない場合、その理由はどのようなことでしょうか？	<input type="checkbox"/> 特に暑さを感じない <input type="checkbox"/> 風が当たるのが嫌だ <input type="checkbox"/> 電気代がかかるのが嫌だ <input type="checkbox"/> メンテナンスをしていない/故障 <input type="checkbox"/> その他 ()	
⑦	上記のいずれかでエアコンを使用していない場合、熱中症の危険性のご説明をいただけましたか？	<input type="checkbox"/> した (聞いてもらった)	<input type="checkbox"/> していない (聞いてもらえなかった)
⑧	今後のエアコンの使用については、どのようにしたいと言われていましたでしょうか？	<input type="checkbox"/> 使用する	<input type="checkbox"/> 使用しない
⑨	何か気になることがありましたら、ご記入ください ()		

以上、ありがとうございます
作成：気候変動適応関東広域協議会 熱中症対策分科会
協力：所沢市 生活福祉課・マチごとエコタウン推進課

おわりに

●気候変動適応関東広域協議会 熱中症対策分科会活動に関する問合せ先

- ・ 関東地方環境事務所 環境対策課 地域適応推進専門官 川原まで
- ・ E-mail : HIROMITSU_KAWAHARA@env.go.jp

●第11回気候変動適応関東広域協議会（令和6年3月7日Web開催済） 当日資料

- ・ 関東地方環境事務所HPに掲載中（PDFでダウンロード可）
- ・ https://kanto.env.go.jp/topics_00170.html